

# Weekly Market Report

Aug 2, 2021

FX, JPY Interest Rate, Topics

## 1. 為替相場概況

強い円買いの継続が想定されるが、FRBのテーパリングへの期待進展に注意。

### USD/JPY (1週間の値動き)



(出所) Bloomberg

### コメント

先週のドル円相場は、リスクオフの動きから円買い優勢。週初は、デルタ株の感染拡大から米10年債利回りが低下し円買いが優勢。好調な米企業決算による株高が進展する一方で、ドル円相場では米長期金利の低下が意識される展開となった。28日のFOMCでは経済は目標に向けて進展しているが、量的緩和の縮小には著しい更なる改善が必要との見方から10年債利回りは低位に抑制されており、ドル買いの圧力は後退し、109.30円台まで下落した。今週は6日（金）雇用統計を中心とした米指標が重要となる。雇用統計では雇用者増加数とともに、失業率や労働参加率、賃金などを包括的に確認し、FRBによるテーパリング開始時期を伺う展開となる。基本的には強い円買いの圧力の継続が想定されるが、雇用回復が強く、テーパリング進展への期待が高まった場合、ドル高に傾く可能性があるためアップサイドリスクには警戒が必要。(市場営業部/小澤)

### 今週の経済指標 (予定)

日付	イベント	予想
8/2(月)	ISM製造業景況指数 (米国)	60.9
8/3(火)	マーケット 1-10年サービズ業PMI (ユーロ)	60.4
8/4(水)	ADP雇用統計 (米国)	650K
8/5(木)	鉱工業生産(前月比) (ドイツ)	0.6%
8/6(金)	非農業部門雇用者数変化 (米国)	900K

### USD/JPY (5年間)



### 今週のレンジ予想 (USD/JPY)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
福永純一	109.00 - 111.00	今週は米主要経済指標の発表が目白押し。結果次第ではテーパリング観測再燃により、ドル高に戻す展開となるか注目。
三原大希	108.50 - 111.00	米経済指標の結果次第で、上値を試す展開と予想。一方各国における変異株感染拡大による下値リスクにも留意。

## 2. 円金利相場概況

国内新型コロナ感染拡大の中で、方向感が乏しい展開を予想

### 10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）

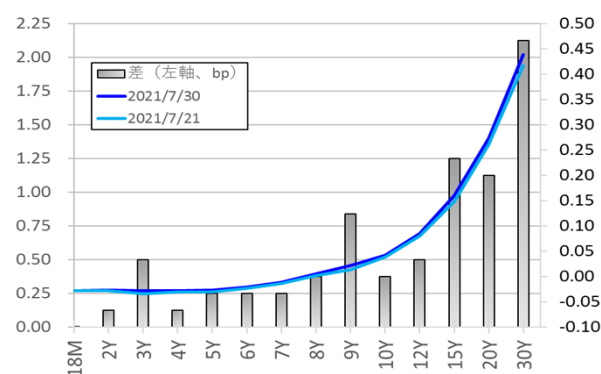


GJGB10 Index (日本国債10年) JGB.F 20 日 30 分 Copyright © 2021 Bloomberg Finance L.P. 02-Aug-2021 08:03:00 (出所) Bloomberg

### コメント

先週の円金利相場は、週初から週末にかけて徐々に金利が上昇（債券安）する展開となった。週前半の円金利は、FOMCを28日に控えていたことから様子見姿勢が続く中で、27日に実施された40億入札結果がやや軟調であったことを受けて、円金利は中長期ゾーンを中心に上昇する展開。週後半は、FOMCを無難に通過する一方で、国内の新型コロナウイルス感染拡大、野口日銀審議委員が追加緩和が必要になった際の手段として「(YCC) 対象年限の長期化も1つの選択肢」と発言したことなどから、方向感が乏しい展開となり、0.02%台での値動きに終始し、0.022%で週の取引を終えた。今週の円金利相場は、先週同様に0.01~0.03%程度の狭いレンジでの推移を予想する。国内では新型コロナウイルス感染拡大、海外では週末に米雇用統計の発表を控える等、不確実性が多い中で円金利も方向感が乏しい展開になると考える。(市場営業部/梅村)

### 金利スワップ変化（1週間）



### 5年円金利スワップ推移（5年間）



### 今週のレンジ予想（10年国債利回り）

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
小野口裕美子	0.00% - 0.03%	米国はジャクソンホール待ちで動意の薄い展開、円金利も金融緩和継続に変化なしで上昇余地の少ない状況が継続しそう。
廣瀬友絵	0.00% - 0.04%	新型コロナの感染再拡大や、緊急事態宣言の対象地域も拡大となり、国内金利の上昇は限定的か。

### 3. 今週のトピックス

#### 当面の英ポンド相場見通し

#### EU離脱に伴う英国経済の地位低下が英ポンド相場の上値を抑制

##### <英ポンド相場見通し>

英ポンドの対ドル相場については、6/1に2018年以来の高値となる1.4248を付けた後、6月FOMCでのタカ派姿勢を受けたドルの買い戻しや英国における新型コロナウイルスデルタ株の感染拡大によって軟調な推移となり、7/20には200日移動平均を割り込み1.35台まで下落する展開となった。ただし、英国で新型コロナ新規感染者数の増加が一服したことやIMFが2021年の成長率見通しを5.3%から7.0%に上方修正したこともあり、英ポンドは買い戻される状況となっている。シカゴIMMの英ポンドネットポジションについてはロングポジションが徐々に縮小し若干のショートに転じている【図表1】。今後の英ポンド相場は英国中銀（BOE）の金融政策正常化期待が下値を支える一方でEU離脱による英国経済の地位低下に対する懸念もあり、上値も抑制された展開となりそうだ。当面のレンジについては英ポンドの対ドル相場は200日移動平均をサポートにした1.3700-1.4200、対円相場は150.00-155.00円までみている。

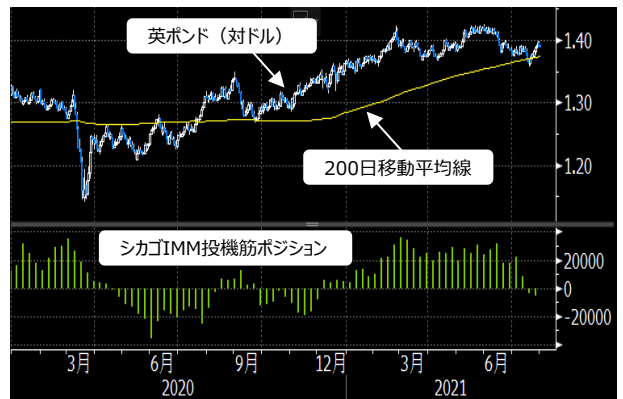
##### <スーパーサズデイ>

今週8/5に行われるBOE金融政策委員会は、金融政策の発表、議事録の公表、四半期インフレ報告、ベイリー総裁会見、が揃う四半期に一度の「スーパーサズデイ」となる。BOEは現在の政策金利0.1%、資産購入枠総額8950億ポンドを維持する見込みであるが、CPIが予想を上回る上昇を続けていることもあり【図表2】、5月BOE時点の成長率見通し（2021年7.25%、2022年5.75%）とインフレ率見通し（2021年2.5%、2022年2.0%）は小幅に引き上げるとみられる。今後の注目点は2021年末に期限を迎える資産購入枠の取り扱いと利上げの時期となるが、現時点では期限到来後の資産購入は再投資のみ、利上げについては2022年の後半から2023年にかけて行われるとみる向きが多い。ただし、英国10年国債金利は低下基調にあり、金融引き締めペースは緩やかなものになりそうだ【図表3】。

##### <EU離脱の悪影響>

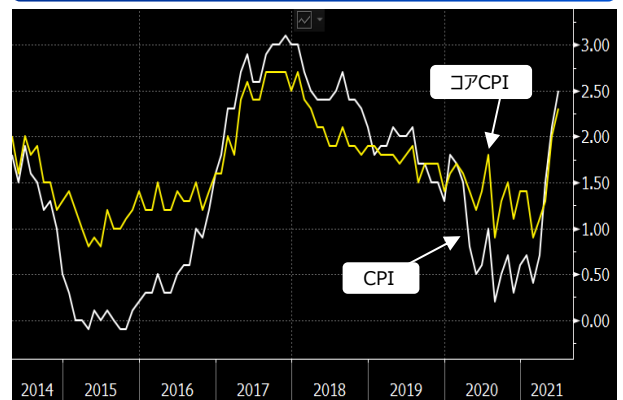
英国は2020年末に合意したEU離脱協定において、アイルランド島に通商上の国境を作らないため、貿易面では北アイルランドを英国から切り離してEU側に残す措置を採用したが、北アイルランドではこのことを不満として暴動が発生するなど混乱が続いている。また、英国が北アイルランドへの移送に必要な証明書免除の猶予期間を一方向的に延長したため、EUは協定違反として強く批判しており、結局9月までの猶予は認められたものの、今後英国とEUの対立が深まる可能性は否定できない状況だ。金融サービス面でも英国の地位低下が続いており、EU離脱以降、英国の欧州株取り扱いシェアは大幅に減少し、金融機関が英国からEUに人員や機能を移す動きも進んでいる。英国のEU離脱に伴う悪影響は英ポンドの上値抑制要因として認識しておく必要がある。（チーフ・マーケット・ストラテジスト／諸我 晃）

【図表1】 英ポンドドル相場とシカゴ投機筋ポジション



(出所: Bloomberg)

【図表2】 英国のCPIとコアCPI（前年比）



(出所: Bloomberg)

【図表3】 英国の政策金利と10年国債金利



(出所: Bloomberg)

## ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）  
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会